

初教 IWABARA UNIVERSITY かわらばん

第19号
2017.7.25

広島文教女子大学
教育学会 発行



もりした ようじ 森下要治学長にインタビュー!!



前グローバル・コミュニケーション学科長であり、これまで初等教育学科で国語専修を中心に指導していただいていた森下要治先生が、この度本学の学長に就任されました。そこで、森下要治先生に学長就任されて変わったことなど、私たちが疑問に感じていることなどのお話を楽しくお聞きすることができました。

Q.学長になって変わったことは何ですか?

A.生活のリズムが変わったことです。仕事の内容も変わり、仕事のリズムも不規則になりました。また、受け持つ授業が1つになり、学生との関わりも減りました。20年間学生と関わってきたので、寂しいと感じることがよくあります(笑)。



Q.好きな本は何ですか?

A.塚本邦雄の『清唱千首』です。江戸時代以前の和歌を集めた本で、大学三年生の時に出会った師匠(大学時代の指導の先生)に勧められました。今はもう手に入りませんが、昔は

何冊も買い、本当に大切なお付き合いをする人にプレゼントしていました。ちなみに、勧めたい本は加藤周一の『羊の歌』です。原爆投下後の医者として働いた経験を持つ著者の自叙伝でとても優れた本なので、是非読んでみてください!

プロフィール

- Q.担当科目…A.文学を読む意味
- Q.出身地…A.島根県出雲市(旧平田市)
- Q.趣味…A.ウォーキング
三線(さんしん、沖縄県の弦楽器)の演奏(独習ですので、人にお聴かせできるものではないのですが……)
- Q.好きな言葉…A.「此天地の間にはな、所謂哲学の思いも及ばぬ大事があるわい。」
坪内逍遙訳によるシェークスピア『ハムレット』の一節です。

おがわ まさふみ 教職センター・小川雅史先生にインタビュー!!



小川先生は、今年度から本学の教職センターで学生の様々な相談や指導を担当しておられます。

小学校教員、教頭、校長、教育委員会での勤務など、様々な立場で教育や子供達に関わってこられた先生に、たくさんの興味深いお話を聞かせていただきました。

▶担当授業…教育情報学(コンピュータの教育利用について多くの研究をされています!); 教育実習関係

▶教職センターでのお仕事…教職を目指す人への相談が主です。願書の書き方、教採の勉強の仕方、教員の仕事について、面接指導、模擬授業指導などについて、一緒に考えたり助言をしてくださったりします!

▶相談できる場所と時間…2号館3階教職センター / 前期: 月水金、後期: 火水金(前期・後期いずれも講義の時以外)

プロフィール

- Q.好きな教科は?…A.歴史(心理学や進化論にも興味があるそうです!)
- Q.小学校教員時代はどんな先生でしたか?…A.面白いけど怖い先生だと思われていたかも?
- Q.大学での最初の授業はどうでしたか?…A.大学生の学びの状況を知らないためうまく伝わるか不安でしたが、学生の真剣な学びの姿勢に感動しました。
- Q.初教の学生に一言…A.こうなりたいという夢を持ってほしい!そして、夢が決まったら、多くの人の知恵や力をもらって夢の実現してほしい!



何事にもチャレンジされる姿勢や、様々なことに興味を持って学び、学ぶことを楽しんでおられる姿がとても魅力的な先生です。先生に相談に行けば、いつも優しい笑顔で迎え入れてくださり、一緒に考えてくださいます!みなさんも是非、教職センターへ!

自主サークル: “はぐくみ”のメンバーに

インタ ビュー!!



今回、初教35期生の学生(現3年生)が『はぐくみ』というグループ(自主サークル)を結成しました。そこで、このグループを作るにあたってのきっかけやこれまで行った活動などの話を聞くことができました。

はぐくみのメンバーは、田邊日向子さん、福田聡子さん、峰谷日菜子さん、本畝瑞歩さん、森望美さん、山本祐理さんの6人です。(写真下段)

【これまでしてきた活動一覧】

- ★2016年11月:『みんなの学校』の上映会、講演会参加(→講演会後に、大空小学校の初代校長とお話をする機会があった)
- ★2016年8月広島大学「ユネスコ ESD コンソーシアム」の研究大会、平和式典への参加
- ★2017年2月:大阪市立大空小学校訪問
- ★その他:育心の時間での活動(平和教育、インクルーシブ教育、国際交流について考える)

Q.グループを作ったきっかけは何ですか?

A.「みんなの学校」という大阪の大空小学校を舞台とした映画の上映会と講演会にみんなで行ったことがきっかけです。

Q.「はぐくみ」というグループ名の由来を教えてください。

A.教育は子どもが「育つ」ことだと考え、「育」の字を使いたく思いました。漢字だと硬いイメージになるので、ひらがなにして柔らかさを出しました(笑)。

Q.活動を通して学んだことは何ですか?

峰谷:行動を起こすことの大切さを学びました。視野が広がったように感じます。

福田:実際に大空小学校へ行けたことで、今の教育の改善点が見えました。

山本:自分のやりたいことを見つけ、実際に行動に移す大切さを学びました。

森:教育に関する根本を見つめ直すきっかけになりました。

本畝:「やりたい!」と言ってみたら、みんなが集まってくれました。1人では出来ないことも、みんななら出来ることを実感しています。

Q.これから「はぐくみ」でどんなことをしていきたいですか?

A.児童教育コース、幼児教育コース関係なく、初教のみんなを巻き込みたいです!教育は教師だけの仕事ではないので、たくさんの人と教育について考えていきたいと思っています。

Q.最後に、一言お願いします!

教育ってなに?だれがするの?そんな素朴な疑問から、教育や社会の問題などについて、一緒に考えませんか?

【今後の予定】

- 8月:広島平和式典への参加、フィールドワークの実施
- 9月:大阪市立大空小学校への訪問
- 3月:映画『みんなの学校』上映会・講演会の実施 ※2017年度 文教チャレンジ助成企画
- 随時:ワークショップの実施(今までのテーマ:平和学習、異文化理解、インクルーシブ教育……など)

卒業生に 突撃訪問!

三田 杏華さん



おち きょうか
越智 杏華さん(平成27年3月卒・児童教育コース音楽専修)

○演歌歌手になろうと思ったきっかけや経緯を教えてください。

小学校2年生の時、長山洋子さんのファンになり演歌と津軽三味線を習い始めました。小中学生の頃は地元の発表会やお祭りなどのイベントで歌うことが多く、高校1年生の時にはNHKのど自慢に出場しました(もちろん長山洋子さんの歌を歌唱しました)。大学で演歌を披露する機会はほとんどありませんでしたが、よくひとりでカラオケに行っていたのは演歌ばかり歌っていました。

私が進路に迷っていた大学4年の12月、ある先生から「あなたが本当にやりたいことは何なの?」と言われたことが一番のきっかけかもしれません。自分の気持ちに素直になった結果出てきた答えが「音楽」、そして「演歌を歌うこと」でした。「大学卒業目前にしてとんでもない答えが出てきてしまった……。」と正直自分に驚いたことも事実です(笑)。ただ、不安な気持ちやマイナスな思考よりも、今までいつもそばに音楽があったことやそれに支えられてきたこと、ステージで身に付いた自信、もっと音楽と向き合いたい!今しかできないことを!そんな前向きな思いや気持ちの方が心の中に大きくありました。のど自慢の時にスカウトして下さった社長と6年ぶりに連絡を取ったところ、「ぜひうちの事務所です。」とおっしゃって下さいました。上京が決まったのは卒業1ヵ月前のことです。

○どんな活動をしているのですか。

今は関東と故郷の愛媛を中心に、キャンペーンやイベントなどで歌っています。7月には東京・赤坂でのファーストライブを行いました。歌のお仕事がない日は、ラジオのレギュラー番組の原稿づくりと収録・歌のレッスン・三味線と歌の練習・ジムで体力づくりなどを行っています。

○演歌歌手になって思うことや今後の目標を聞かせて下さい。

演歌が好きで、歌うことが好きでこの道を選んだのに、歌うことが嫌になったりお客様の前に立つことが怖くなったりする時もあります。それは、プロ歌手としての厳しさを日々実感しているからです。デビューしてまだ1年と半年しか経っていませんが、「なんで演歌歌手になったんだっけ……?」と涙することも(笑)。でも、へこんで、そして考える度に、私のステージを見て喜んでくれるみなさんの姿を思い出して……。「あ、私、みんなの笑顔を見るのが好きなんだ。そのために演歌を歌うんだ。」って気付かされます。

葛藤や苦悩以上の、やりがいや喜び、達成感があるからがんばれるのだと思います。愛される歌手になること、私の歌を通してみなさんに笑顔と感動をお届けすることが最大の目標です!

○文芸系にひとこと。

私がこの道を選ぶことができたのは、自分に素直になれたからだと思います。自分の一番の味方は自分です。世界にたったひとりしかない自分を大切する方法の一つが「自分に素直であること・自分に素直になること」ではないでしょうか。最後に、上京を決めた私に父が掛けてくれた言葉をみなさんに贈ります。「人生一度きり。悔いのないように。」

○おしらせ

FM湘南ナバサ毎週日曜日 朝9:00 ~ 三田杏華の音楽華だよ!

【インタビューを終えて】

「人に喜んでいただきたい」と話す表情は輝き「自分に正直に」と語った言葉から芯の強さが現れていました。そんな彼女の笑顔に惹かれ、多くの方が気持ちを込めて現在の彼女を支えていることを知りました。取材を終え、撮影場所の品川プリンスホテルへ移動中に社長さんにお逢いしたのです。驚くような偶然の出来事を通して、運を引き寄せる強い思いとひた向きな努力を感じました。一見すると分かりませんが、着物で三味線を弾いて歌うことは相当な体力がいります。本番前の準備やコンディションづくりも並大抵ではありません。上京から1年経たずにデビューを果たした陰には目に触れない努力がありました。この先、彼女のひた向きな歩みが花開き実を結ぶよう願っています。

▼すずらん様様のスカートは母校愛の現れです。

